

2019年度 第1回「ナースングセミナー」 アンケート集計

回収 44 枚 / 出席 53 名 (83%)

1. 出席者 職種

医師	1名
看護職	14名
介護職 (CM 含む)	23名
事務行政	11名
相談員	2名
MSW	1名
PT	1名
合計	53名

2. 参加理由 (重複あり)

興味があった	36名
上司・関係者の勧め	6名
自分の意思	1名
医療介護担当のための情報収集	1名
記入無し	1名

3. 研修内容

よかった	39名
まあまあ	3名
思っていたのと違った	1名
記入無し	1名

4. 研修内容はあなたの実務に役立てられそうですか

役立てられる	37名
少し役立てられる	6名
難しい	0名
記入無し	1名

5. 4で難しいとした理由をお聞かせください

対象者 なし

・看護、介護職は自分たちが頑張らないと大変思っており、その時本人家族が何をできるのか事前に考え、話し合い家庭、地域のものにしていくことが重要と感じました。なかなかプランにいれられていない現状なのもわかりました。

6. 希望の研修あればお書きください

- 定期的な開催をお願いしたい
- ポリファーマシーについて
- この災害時の続きを・・・
- 患者や家族の病状やサービスの説明、カンファレンスをするときに、果たして患者等に理解できる言葉で話をしているか。割とサラッと専門用語でやっていますよね。そこらへんもう少し考えてみる研修を。
- 地域ごとの全体会議
- 一住民としてのデモ実習研修などを多くすると、一般の方に伝える力が養え、職員としてもそのうえで何をすべきかが啓発できると思う。停電、断水、地震で何が起こるか、避難所での自立運営など 1 つ 1 つテーマを絞ってイメージする力を養えば、自分たちで想像力が高まると思う。
- また災害時の研修をしていただきたい
- 医療連携の手段、方法を具体的に聞いてみたい。(事例など)

7. その他 自由記載

- 在宅をめぐる災害訓練があればよい
- 現場の皆様の困りごと、行政に求めること、課題が分かったので、職場で共有したい
- とても有意義な内容でした。定期的に災害についてのセミナーを実施していただきたい
- 災害用に利用者様の安否確認票を作成し、常時携帯できるような体制作りが必要
- 自助・互助の力を強めることが大切と感じた。
他人ごとではない自分事だと感じる事が大事ですね。
紙ベースで情報を用意する・・・なるほどと思いました
- 大変役立ちました
- 在宅での災害対策 とても興味深く、アンケートや意見など参考になりました
- まずは自助 それぞれ各自が竿外に対する意識を持ち、備えることが大切
この機会に事業所内でも話題にし、備えの輪を広げていきたい
- 橋本地域はこれまで地震や津波のリスクは比較的低いので災害の意識が低かったのではと思う。今後水害のリスクを皆が意識し、個別に支援を検討することが大切
- 2名の講義、報告など、とても勉強になりました
- いろいろな職種、立場の意見が聞けて良かった
- GWで介護事業所の方が、避難場所に提供したい意向があることが分かったので、避難所案内が公民館ばかりとなっている現在、行政と介護事業所が連携できると、要援助者の非難がもっと進むのではないかと
- 日々災害のことは考えます。けれど、何をすればよいかわからず不安だけがあります。会社や上司や仲間たちといろいろな話を持ちたい。何かあったとしても対応できるようにしたい。
- 安否確認票、個別医療処置一覧表等の作成をしていかなくてもと思いました。今まで災害に対しての意識が低くてみんなはこんなことをしているのだとわかり、自分たちもこの研修を参考に事業所で取り組んでいきたい

- いろんな職種の方の意見を聞くことができてよかった。
災害時のマニュアル作成が必要。
- すごくよかった。現実的な話が聞けて具体的に考えることができた。普段から災害時について考えていくことが大切。とても参考になった。
- 自助、互助、共助の大切さを改めて考える機会となった。自施設でのできることは何が必要かと課題として持ち帰ろうと思う
- 災害対策について、事業所内でしっかりと話し合っていかなければいけない。私は訪問介護なので、何ができるか各ヘルパーと話し合いまとめていきたいと思う。
- いろいろな職種の方の意見が聞けて自分の職種とは違った視点があるのが分かった。今まで災害にあわずに來れているので、どこか他人ごとのようなところがあるが、これだけ毎年災害があると考え直さないといけない

以上